

近畿地区で安心アドバイザー講習会開催

パチンコ・パチスロ産業21世紀会（代表／阿部泰久理事長・全日遊連）は6月28日、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター・大阪府中央区）において、近畿地区「安心パチンコ・パチスロアドバイザー」（以下「安心アドバイザー」）講習会を開催した。パチンコ・パチスロ依存（のめり込み）問題対策の強化の一環として、各店舗に「安心パチンコ・パチスロアドバイザー」を配置できるようにするための講習会は、近畿地区2府4県のホール関係者約500名余が参加した。

講習会は全日遊連の平川容志副理事長（大遊協理事長）が遊技業界の依存問題への取組について、リカバリサポート・ネットワークの西村直之代表がパチンコ依存の予防と対策について、サンキョー（株）の栗山昌人氏が安心アドバイザーの役割について講義した。



栗山氏 西村代表 平川副理事長

「遊技業界の依存問題への取組について」平川副理事長
依存問題に関する経緯を改めて振り返ると、昨年12月に成立したIR整備推進法に関わる議論の中で、パチンコを含めたギャンブル等依存症が重大な問題として指摘され、同

法の附帯決議において「カジノ問題にとどまらず、他のギャンブルやパチンコ・パチスロ遊技によって起こる依存症対策について、国の取組みを抜本的に強化すること」が盛り込まれたことを主な発端とする。全日遊連は今年1月、全国理事会で大野春光副理事長（岐阜遊協理事長）を依存問題専任の担当副理事長とし、

新たに遊技関連依存問題検討プロジェクトチームを発足。同月末にはパチンコ・パチスロ産業21世紀会において主要6団体（全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商）による「依存問題対策推進会議」の発足を決定し、他の8団体をオブザーバーとして遊技業界全体の取り組み強化を検討。依存問題への対策を更に強化し、最優先課題として取り組む主旨の声明を発表した。

政府は3月31日に開催した、ギャンブル等依存症対策推進関係閣僚会議において、ギャンブル等依存症対策の強化に関する論点整理を行った。その中で、パチンコ・パチスロ遊技機に関連した項目は8点。①リカバリサポート・ネットワークの相談体制の強化及び機能拡充②18歳未満の者の営業所への立入禁止の徹底③本人・家族申告によるアクセス制限の仕組みの拡充・普及④出玉規制の基準等の見直し⑤出玉情報等を用意に監視できる遊技機の開発・導入⑥営業所の管理者の業務として依存症対策を義務付けの業界の取組について評価・提言を行う第三者機関の設置⑦ばちんこ営業所における更なる依存症対策

従来の取組み（RSNの支援や問題対応ガイドライン、自己申告プログラム、子どもの車内放置事故防止活動等）に加え、RSNの機能拡充や自己申告プログラムの改善、18歳未満立入禁止の徹底等を図るべく、新たな施策を展開する運びとなった。平川理事長は以上の経緯や安心アドバイザー設置の理由と位置付けについて説明し、

「依存問題に関連し業界を取り巻く環境が厳しさを増している現状を理解し、危機感を共有して頂きたい。お客様が遊技依存に陥らない環境を作るためには一つひとつの取組みを業界全体で進めていく事が大切」と理解と協力を求めた。



近畿各県のホール関係者約500名が参加

全く自己制御が不能になる人も存在する。

のめり込みは医学的にはギャンブル障害と名づけられ、その診断基準（DSM-5）となる9つの設問パチンコを減らすと不安、落ち着かない、のめり込みを隠す為嘘をつく、等の内、4項目以上に該当すると何らかののめり込み状態が出現しているという。その状態は、とめられないほどではないが持続し（続けてしまふ）という軽度ギャンブル障害から、自己コントロールが難しいという重度ギャンブル障害まで危

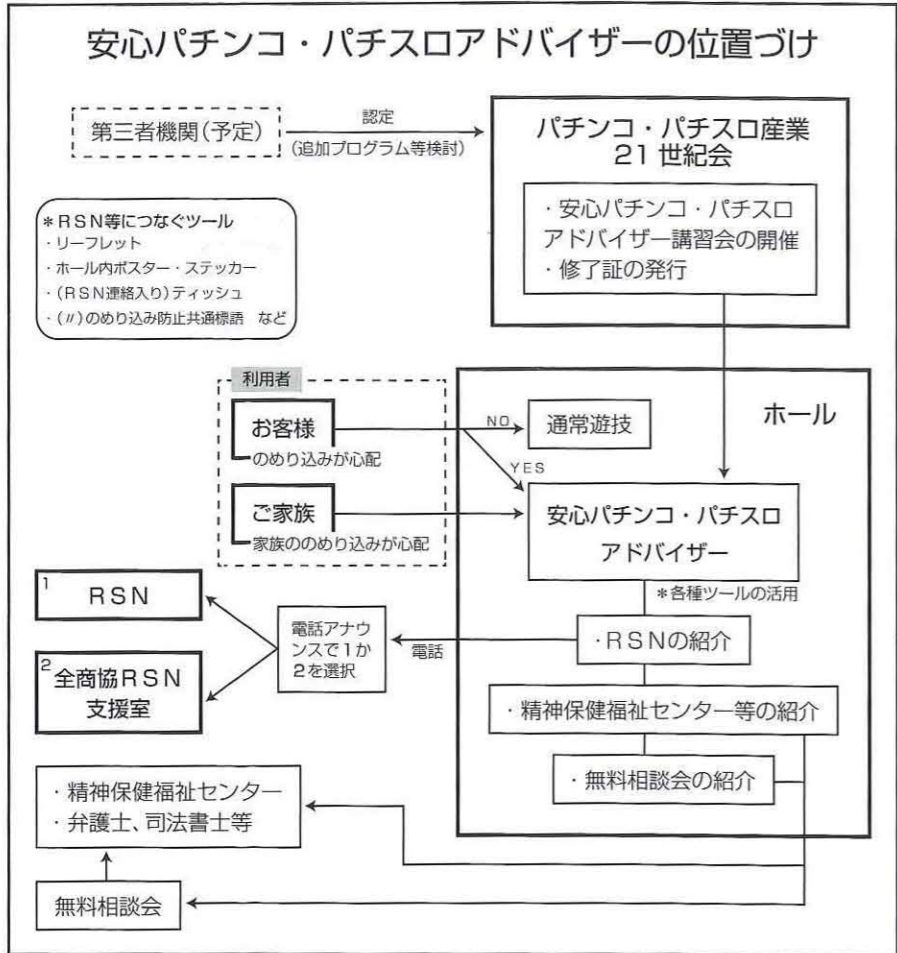
険度が異なり、重度までいくと周りに止めてもらわなければならない状態となる。遊びの中では良い部分と悪い部分は背中合わせにあり、人によっては軽度から重度まで緩やかに進行したり、早く進行してしまう人もいたり様々だ。

全国の依存症数など、正確な数字が出ていない現時点において、依存の実態はまだ分っていない。しかし、少なくともファン人口およそ1000万人の内、1%で10万人、5%なら50万人に深刻な問題（軽度〜中度ギャンブル障害はこの数倍）を

抱える事となる。パチンコは日本でも最も市場規模が大きい娯楽産業であり、依存問題が社会に与える影響は少なくない。西村代表はこのような実態を説明した後、対策を講じていく必要性を改めて説いた。

依存対策の目指すところはユーザー本人にとっては、質の良い暇つぶしである事、そして家族や周囲の人からは許容できる範囲の習慣に止める事だ。その為に業界としては、①余暇の範囲で収まる形態②問題を起すこしにくい知恵③問題を深刻にさせないための装置④生じた深刻な問題への解決支援が必要となる。西村代表は、

「ギャンブル障害は軽度から重度まで、何らかのきっかけで自己改善できる人が60%〜90%います。ユーザー一人ひとりに直接、のめり込ませない対策をホールとして行う事は難しいが、そのきっかけを提供する事は可能です。その役割を果たすのが安心アドバイザー。考え方としては接客の質を更に高めるべく一つのスキルだと捉えて頂けたら」と語り、一緒に安心して安心・安全なホールを作って行きたいと語った。



「安心パチンコ・パチスロアドバイザー」の役割と実態（栗山氏）
安心アドバイザーの目的は、初心者にはパチ

ンコ・パチスロの楽しさを体感させ、新たなファンになってもらう事だ。初心者に対して今まで以上に丁寧な案内を行う事で、結果として依存予防につながる意図がある。特に案内の中で、ユーザーそれぞれに無理の無い遊技を進める事は大切だと栗山氏。貸し玉料金（4円・1円等）や機種スペック（ミドル・甘デジ・ちよいパチ等）等の情報を伝え、ユーザーの理想に近い遊び方を案内する。

初心者においては最初から依存が発生しているケースは少ない。だからこそ適切なアドバイザーが必要だ。ゲーム性を理解して機種に対する出玉が有る程度想定できれば、適度な遊技に繋がりが易い。しかし、出玉の想定ができなければ、玉が出たときは過度な期待を生むようになり、依存へ発展、出なかった場合でも納得できず不満が募りファン離れに繋がる可能性もあるという。こまめな声かけと見守りで、落ち着いた遊技環境の提供が求められる。

ホール内では日常より、ユーザーに対して様々な対応をしており、その中には依存問題が背景にある事をお知らせするものもある。安心アドバイザーはそれを察知して、問題に対するアドバイスを行う事も重要な役割だ。ユーザー同士のお金の貸し借りや、「出ない、当たらない」「パチンコのせいで生活が苦しい」といった内容の言葉が出てきたら依存問題が疑われる。声かけと見守り、RSN電話相談の紹介や自己申告プログラムの案内など、ケースにマッチした対応が必要だ。

最後に西村代表は、

「安心アドバイザーの取組みは世界でも画期的です。カジノでは従業員教育の一環として依存症対策について取り入れられているが、まだ一部しか徹底されていない。そうした現状で、日本の娯楽場では約1万店全てにアドバイザーが配置される事になる。世界に類を見ない取組みとなる。今後、皆様一人ひとりがこの取組みを育てていくべきです。日本独自のパチンコに世界は大きな注目を注いでいますし、パチンコののめり込み問題に対する世論の見方も変わっていく事でしょう。お客様と接しているのは、皆様一人ひとりで。お客様のために何が出来るかを、一緒に考えて取組んで行って欲しい」と述べた。